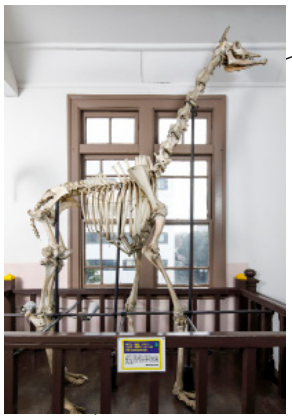
日獣之書籍

本学教員の著書など関連書籍のご案内

2026年 新刊案内

―― 出版にあたって（博物館学芸員 石井さんより）

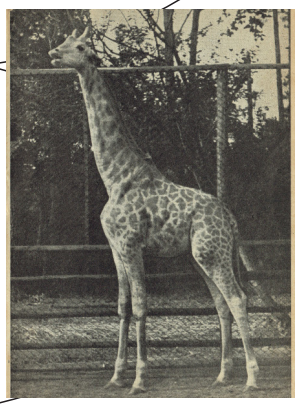


▲ 骨格標本になった長次郎

一号棟には長年に亘り、キリンの全身骨格標本が展示されていました。標本の来歴は不明とされていましたが、博物館の調査により、その正体が 1942 年に上野動物園で誕生し「長次郎」と名付けられたキリンであることが判明しました。当館では長次郎を度々取り上げて来ましたが、この度、2024 年に開催したイベント「キリン講話会」の内容を元にした書籍を刊行します。本書では、長次郎の歩んできた歴史を詳しく紹介するとともに、講話会にてご講演いただいた 4 人の先生方に、様々な角度からキリンについて語っていただいています。

読者の皆さんへ

キリンが好きな方には、日本におけるキリン飼育の黎明期を知るための一冊、そして、かつて日本で生まれ標本として残るキリン「長次郎」について知るための一冊としておすすめです。キリン好きではない方も、本書を読めばキリンに対する見方が変わること請け合いです！



▲ 生前の長次郎

（画像出典：東京都編（1944）『井之頭恩賜公園 自然文化園』（第 3 版））

石井 奈穂美（いしい・なおみ）

日本獣医生命科学大学付属博物館　学芸員。2014 年に日本獣医生命科学大学大学院獣医生命科学研究科獣医保健看護学専攻博士前期課程修了。同大学獣医学部野生動物学研究室研究補助員を経て 2016 年より現職。日本獣医生命科学大学付属博物館の第 1 回企画展「キリンが来た道―麒麟児 長次郎の歩み―」（2023 年 11 月～ 2024 年 6 月）の企画・制作を担当した。

キリンが来た道　麒麟児 長次郎の歩み

2026年
新刊

【監修】日本獣医生命科学大学付属博物館
【著者】石井奈穂美・郡司芽久・川田伸一郎・清水勲・齋藤美保ほか
【発行】工作舎
【価格】本体 2000 円＋税
【発売日】2026 年 3 月 23 日

表紙カバーのキリンに乗っている鳥は、身体のダニやシラミを食べて共生する「ウシツツキ」です。

【目次】

はじめに　羽山伸一

Part1 麒麟児は何処から　石井奈穂美　ほか
「あなたは誰 !?」
アフリカから日本へ
日本初の麒麟児誕生
上野から井の頭自然文化園へ
兄弟の行方
麒麟児の今後

Part2 キリン講話
[1] 化石が示すキリンの進化　　郡司芽久
[2] 明治時代のキリンの標本　　川田伸一郎
[3] 国内キリンの個体群管理について　　清水 勲
[4] 野生キリンのくらし　　齋藤美保

あとがき 鈴木浩悦（日本獣医生命科学大学 学長）

付属博物館監修、謎のキリンの骨格標本の正体に迫る

日本獣医生命科学大学には一号棟と呼ばれる木造校舎が存在する。この木造校舎には、長年にわたりキリンの全身骨格標本が展示されていた。長い歴史の中でその正体は忘れられかけていたが、博物館の調査によりその正体が「長次郎」と名付けられたキリンであることが判明する。

この本について

日本獣医生命科学大学付属博物館が監修した書籍『キリンが来た道　麒麟児 長次郎の歩み』が 3 月 23 日（月）に刊行される。
本書は 2024 年に同館が開催したイベント「キリン講話会」の内容をまとめたもの。主役となるキリン「長次郎」の歩んだ歴史とともに、講話会の講演者である 4 名の専門家による「キリン講話」を掲載。
Part1 では、国内におけるキリン飼育の黎明期を振り返りつつ、長次郎の歩みを明らかにしていく。Part2 では、国内外で活躍する 4 名の専門家により、キリンという生き物が多角的に語られる。

獣医師が教える愛犬のおうちボディケア
マッサージ・エクササイズ・歩行サポート

2026年
新刊

【著者】宮田 拓馬
【発行】緑書房
【価格】¥2,300 ＋税
【発売日】2026 年 5 月 29 日

「最期のそのときまで不自由なく歩ける・動ける状態であってほしい！」
そう願う飼い主さんが、愛犬と元気に過ごし続けるために、日常生活の中で気軽に実施できるマッサージやエクササイズ、歩行サポートについて、犬のリハビリテーションの専門家が丁寧に解説。著者による実演動画も閲覧でき、細かい部分もよくわかる。

Part 1　はじめに知っておきたいこと
　　やさしく・くわしく解説!
Part 2　マッサージ
Part 3　エクササイズ
Part 4　起立と歩行のサポート
番外編　犬のリハビリテーションを知ろう

著者紹介

ミヤタ　タクマ
宮田　拓馬　　日本獣医生命科学大学　獣医学部　獣医保健看護学科　准教授

獣医師、博士（獣医学）、日本獣医生命科学大学獣医学部獣医保健看護学科獣医保健看護学臨床部門 准教授。 2009 年日本獣医生命科学大学獣医学部獣医学科卒業後、同大学院獣医生命科学研究科獣医学専攻博士課程にて獣医外科学研究室に所属し研究を行いながら、神奈川県内の動物病院に勤務。2013 年博士号を取得。2024 年より現職。日本動物リハビリテーション学会副会長を務める。著書に『写真で流れをつかむ犬と猫の周術期のいろは』（エデュワードプレス）、『犬と猫のリハビリテーション学』（緑書房）、『VNCA 標準動物看護 診療補助』（共著、エデュワードプレス）など。

寄生虫の事典 ―医学・獣医学・生物学から人や社会とのかかわりまで―

2026年
新刊

【著者】永宗 喜三郎・新倉 保・神川 龍馬・常盤 俊大・彦坂 健児・松崎 素道・脇 司（編）
【発行】朝倉書店
【価格】本体 15,000 円＋税
【発売日】2026 年 5 月 10 日（予定）

病原性や防除面だけでなく，生物としての面白さや人・社会との関わりまで解説。
人体寄生虫学，獣医寄生虫学，環境寄生虫学を包括的に扱い、分野横断的にまとめた。各分野の魅力を引き出すことを目指した図や写真を積極的に掲載することで視覚的に理解しやすく、また、1 つのキーワード・トピックスを見開き単位で解説しているため興味のあるところだけ拾い読みできる形式となっている。

目次
I 総論
（宿主／地理／社会／寄生戦略／免疫・分子機構／進化生態学など）
II 各論
（原虫／条虫／吸虫／線虫／節足動物／共生生物など）
III 病害・診断・検査
（寄生虫症の概要／症状／法律など）

著者紹介

トキワ　トシヒロ
常盤　俊大　　日本獣医生命科学大学　獣医学部　獣医学科　准教授

獣医師。博士（医学）。日本獣医生命科学大学獣医学部獣医学科卒業後、東京医科歯科大学（現東京科学大学）医歯学総合研究科博士課程修了。麻布大学獣医学部特任助教（獣医病理学）を経て、2015 年より本学に勤務。東京大学非常勤講師（寄生虫学）を兼任。著書に『寄生虫のはなし―この素晴らしき、虫だらけの世界―』（朝倉書店、共編著）、『寄生虫学』（緑書房、共著）、『犬の内科診療』（緑書房、共著）などがある。

ファインバブルの食品・農水産分野への利用

2026年
新刊

【著者】玉置雅彦（編著）小林史幸（編著）池浦博美（著）山﨑正幸（著）才木　充（著）
佐合　徹（著）堤　裕昭（著）松野和史（著）
【発行】幸書房
【価格】3,800 円＋税
【発売日】2026 年 5 月 15 日

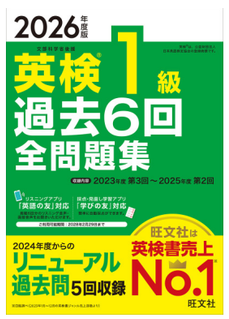
これまで刊行されてきたファインバブル関連の書籍は、化学工学や装置技術を中心とした内容が多く、食品および農水産分野への応用を体系的にまとめた書籍はほとんど見られなかった。本書は、ファインバブルの基礎的な原理や特性を解説するとともに、食品の洗浄・殺菌・調理・加工への応用事例、さらには農業・水産業における生産技術への展開まで、最新の研究動向を総合的に整理した。

序論　食品と泡
第 1 部　ファインバブル入門
第 2 部　ファインバブルと食品の洗浄・殺菌
第 3 部　ファインバブルの食品・農水産分野への利用

著者紹介

コバヤシ　フミユキ
小林　史幸　　日本獣医生命科学大学　応用生命科学部　食品科学科　准教授

広島県立大学大学院生物生産システム研究科修了（博士（生物生産学）取得）。その後、明治大学でのポスドク生活を経て、本学食品工学教室（現バイオプロセス工学分野）に着任し、ファインバブルを用いた食品の殺菌・酵素失活・洗浄技術の開発に従事。近年は、ファインバブルを活用した発酵や微生物利用に関する研究を行っている。



2026 年度版 英検 1 級 過去 6 回全問題集

2026年
新刊

【執筆】鴇﨑敏彦、松井こずえ、浅場眞紀子、田中亜由美、Ed Jacob
【発行】旺文社
【価格】2,900 円＋税
【発売日】2026 年 2 月 26 日

英検 1 級合格を目指すなら、まずは過去問から！
2024 年度から加わった新ライティング問題については、巻頭に特集ページを設けて、旺文社オリジナル予想問題の解答例・訳・解説を掲載しています。新試験対策にお役立てください！

筆記・リスニング・面接
・2025 年度第 2 回検定
・2025 年度第 1 回検定
・2024 年度第 3 回検定
・2024 年度第 2 回検定
・2024 年度第 1 回検定
・2023 年度第 3 回検定

執筆者紹介

トキザキ　トシヒコ
鴇﨑　敏彦　　日本獣医生命科学大学　全学教育センター　教授

学習院大学文学部英米文学科卒業後、同大学院人文科学研究科博士前期課程を修了。その後、私立中学高等学校英語科の専任教員として従事した後、複数の私立大学の英語講師を経て、本学英語学教室（ 現 教育実践学分野 ）で古英語（450 年頃～ 1100 年頃の英語）や中英語（1100 年頃～ 1500 年頃）といった古い英語の文法を研究するほか、英語学習における動機付けに関する研究を行う。

生き物と匂い・フェロモンの事典

2025年
新刊

ヒトを含む様々な動物種の匂いとフェロモンのメカニズムについて、解剖、生体、進化的背景、さらには実社会における応用例まで、生き物と匂い・フェロモンのかかわりを幅広く、各項目４頁の読み切り形式で解説した中項目事典。

著者紹介

横須賀（ヨコスカ）　誠（マコト）　日本獣医生命科学大学　獣医学部　獣医学科　教授

日本獣医畜産大学（現：日本獣医生命科学大学）獣医畜産学部獣医学科卒業後、岐阜大学大学院連合獣医学研究科修了。その後、東京都神経科学総合研究所（現：東京都医学総合研究所に統合）、フロリダ大学、聖マリアンナ医科大学を経て、現職。実験動物学、動物行動学を中心とした獣医学教育に従事している。
主な著書:カラーアトラス エキゾチックアニマル 哺乳類編第３版（霍野晋吉、横須賀誠）緑書房 2022 年、動物の事典（末光隆志総編集）（編集と執筆）朝倉書店 2020 年

動物福祉　アニマルウェルフェア　―世界の歩みと日本の取組み

2024年
新刊

育てる、食す、護る、愛する。 動物が健康で幸せに生きられることが、動物福祉（アニマルウェルフェア）の大前提。人は感情ではなく科学的な根拠に基づいて動物を飼養し、動物福祉に配慮して育てられるペットや畜産動物の　人間による利用は、否定されないことが望まれる。 …しかし、動物倫理との厳密な区分はあり得ず、いのちあるもの同士の永遠の課題として 残り続けるだろう。

著者紹介

植木（ウエキ）　美希（ミキ）　日本獣医生命科学大学　名誉教授

神戸大学大学院博士課程修了、農業経済学を専門とする博士（東京大学・農学）。
現在は、日本獣医生命科学大学 名誉教授。

田中（タナカ）　亜紀（アキ）　日本獣医生命科学大学　獣医学部　獣医学科　特任教授

日本獣医生命科学大学卒。カリフォルニア大学デービス校の獣医予防医学修士課程においてシェルターメディスンを専攻、その後同大の疫学部博士課程でシェルターメディスンと災害獣医学の研究者となる。現在、本学獣医学科野生動物学研究室所属。

「ペットロス」は乗りこえられますか？　心をささえる 10 のこと

2024年
新刊

無償の愛を与えてくれる唯一無二の存在。ペットを亡くしたとき、人は大きなショックと痛みを受けます。
「こんなに苦しいのは私だけ？」
いいえ、あなただけではありません。この瞬間にも世界中で何千万の飼い主が、同時に「ペットロス」に遭っているのです。いつまでも悲しく忘れられない、つらく苦しい「ペットロス」。いつか、乗り越えられる日が来るのでしょうか？

著者紹介

濱野（ハマノ）　佐代子（サヨコ）　日本獣医生命科学大学　全学教育センター　教授

本学獣医学科卒業後、白百合女子大学大学院博士課程で発達心理学を専攻。博士（心理学）。帝京科学大学教授などを経て、2023 年より本学獣医学科比較発達心理学研究室に所属。放送大学客員教授。獣医師のほか、公認心理師、臨床心理士の資格を有する。著書『人とペットの心理学（北大路書房 2020）』、共著『日本の動物観（東京大学出版会 2013）』他がある。

はじめて学ぶ哺乳類

2024年
新刊

哺乳類ってどんな生き物？　言われてみれば、意外にわかっていない！知ってるようで知らない哺乳類を「ちゃんと」わかるための入門書。生物としての特徴やからだのしくみ、行動やくらしの調べ方、人間社会との関係まで、具体的な例をあげて紹介。哺乳類を体系的に学ぶはじめの一歩をサポートします。生き物を学ぶすべてのひとにおくる、獣医学部教授の基礎講座。獣医学部や農学部の学生はもとより、猟師や飼育員など、哺乳類にかかわる仕事を目指す全ての人におすすめ。

著者紹介

山本（ヤマモト）　俊昭（トシアキ）　日本獣医生命科学大学　獣医学部　獣医保健看護学科　教授

自由学園を卒業後、北海道大学大学院農学研究科にて博士（農学）を取得。2010 年より NPO 法人ピッキオ理事。
著書に共著『サケ・マスの生態と進化』（文一総合出版 2004）、共著『野生動物と社会―人間事象からの科学』（文永堂出版 2011）、共著『動物看護の教科書・第２巻』（緑書房 2022）他がある。

生命倫理学概論

2024年
新刊

本書は、『生命倫理学』の基礎を学び、各専門領域の展開を模索する初学者のための書籍である。
生命倫理学の成り立ちから、がん治療の倫理、臓器移植医療の倫理、動物実験の倫理、遺伝子操作研究の概論を総括した。
「第５章　医学・生命科学研究における動物実験の倫理」を担当。

著者紹介

佐々木（ササキ）　典康（ノリヤス）　日本獣医生命科学大学　獣医学部　獣医学科　准教授

酪農学園大学酪農学部獣医学科を卒業後、北海道大学大学院獣医学研究科博士課程を修了。獣医生化学研究室の教員として教育・研究に従事。
専門は獣医生化学・獣医栄養学であるが、ライフワークとして獣医学に関する歴史の研究も行っている。